

日本バプテスト連盟加盟諸教会・伝道所のみなさまへ

— 「改憲ステージ」とも言える、いま、この時を。 —
(連盟理事会からの呼びかけ)

主の御名を讃美します。

私たち日本バプテスト連盟理事会は、去る6月7日から9日にかけて、2013年度第一回理事会を開催し、連盟加盟教会・伝道所のみなさまに以下の呼びかけをさせていただくことにいたしました。

いま、この日本では、これまで経験したことが無いほどに、改憲の動きが現実味を帯び、極めて危険な状況を迎えています。私たち理事会は、このことを深く憂慮します。

日本国憲法は、かつて全体主義的軍国主義によって国民を統制し、朝鮮半島や中国の一部を植民地化し、アジア諸国に多大な犠牲者をうみ出したアジア・太平洋戦争の悲劇のすえに、深い反省と新たな決意とによって成立した憲法です。それゆえ、日本国憲法全体には、「主権在民」と「基本的人権の尊重」、そして「平和主義」が貫かれています。世界の平和を希求し、武力によらずにこれに貢献しようとする高い志（こころざし）は、いまなお多くの人々が戦争と圧政に苦しむこんにちの世界にあって、「希望の光」となり、多くの国々にとって目指すべき目標となっています。

私たちキリスト者は、この世の何よりも聖書の教えを重んじ、生命・人生・社会形成の揺るぎない指針としています。そこに「平和の主」「和解の主」としてのキリストを見いだします。それゆえに、この日本の歴史の中に生きる私たちキリスト者は、平和憲法を守り活かすために、力を尽くしていくべきです。

改憲勢力の中心である政府自民党は、すでに「憲法改正草案」を準備しています。それは、天皇を再び神格化し、国家・公益のもとで国民の人権を制限し、政教分離の原則を曖昧にし、国家にとって都合の良い宗教を「習俗・儀礼」として奨励し、信教の自由にもとづく不服従を容認しない内容となっています。なによりも、現憲法が、「戦争はしてはならず、また、できないもの」という原理に立つのに対し、この改憲案には「しても良い戦争があり、また、できるようにする」ために国防軍の新設や集団的自衛権の行使が謳われています。国家のために銃を取り、国家のために命を献げることが美しい生き方（死に方）とされる時代の再来を彷彿とさせます。神のみを神とし、主告白に生きる私たちは、この改憲案を受け入れることはできません。

私たちバプテストは、個人の信仰の尊重、政教分離の確立に目覚め、この歴史の中に登場し、その精神を受け継いでこんにちも存在しています。私たちは、まさに「バプテスト」として、いまこそ、その大切にしてきたものを掲げて歩みたいと思います。

参議院選挙が公示され、投票日が近づいてきました。そうした投票行動を含め、私たちはこれからしばらくの間、実に冷静に、そして思慮深く生きることが求められていると言えます。政治に無関心にならず、今までのどの時代にも増して、為政者のために、この国の政治の成り行きのために、真剣に祈らねばならない時です。私たちの信仰の本質と信仰者としての生き方が、歴史の中で問われています。ですから、単に政治的な側面としての取り組みでなく、まさしく生の全領域にかかわる信仰告白の闘いとして、「改憲ステージ」とも言える、いま、この時を、共に折りあい、励まし合って歩んでいこうではありませんか。

主の平和を祈りつつ

2013年7月9日

日本バプテスト連盟理事会一同